



独立行政法人

大学入試センター

National Center For
University Entrance Examinations

大学入試センターが大学の求めに応じ 記述式問題等を提供する方式の 試行調査の結果報告

平成30年12月27日

目次

I	実施概要	P. 2
	1. 試行調査の趣旨	P. 2
	2. 試行調査の実施概要	P. 6
II	結果の概要	P. 7
	1. 試験問題、正答の条件等に関する分析・検討	P. 7
	2. 実施方法に関する分析・検討	P. 16
	3. 利用方法に関する分析・検討	P. 18
	4. 本方式の導入に向けた検討の方向性	P. 20

Ⅰ 実施概要

1. 試行調査の趣旨

平成29年7月13日に文部科学省から公表された「大学入学共通テスト実施方針」では、国語の記述式問題について、「センターが共通テストにおいて作問、出題、採点する記述式問題とは別に、各大学が個別選抜において一定の期日に出題・採点に利用することができるようセンターが大学の求めに応じ記述式問題及び採点基準を提供する方式の導入も検討する」とこととされた。

これを踏まえて大学入試センターでは、希望する大学が個別選抜で活用することを念頭に、国語の記述式問題を作成し、各大学での活用のあり方について検証するための試行調査を実施した。

(1) 試行調査における問題作成の方向性

- 大学の個別選抜において、テキストの精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答する記述式問題を出題することを念頭に、国語の「作問のねらいとする主な『思考力・判断力・表現力』、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）」の④「テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる」力を問うことを主な出題のねらいとして問題を作成することとした。
- 論理的な文章を対象とし、言語活動の過程を重視した。二つの大問で構成される問題（試験時間は80分）とし、それぞれの大問は200～300字程度で解答する記述式問題1題及びそれ以下の字数で解答する記述式問題や選択式問題による2題の計3題で構成した。

	第1問	第2問
主たる題材	論理的な文章一つ	論理的な文章二つ
小問数 解答する字数 配点イメージ	小問3問 問1 60字(15点) 問2 50字(10点) 問3 250～300字(25点)	小問3問 問1 選択肢(7点) 問2 70字(18点) 問3 300字(25点)

【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」，及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

※ ここでの「テキスト」は、文章、及び、文章になっていない断片的な言葉、言葉が含まれる図表などの文章以外の情報を含む。

※ 「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。

		<読むこと> 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	<読むこと> 【考えの形成】（文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	<書くこと> 【題材の設定】【情報の収集】【内容の検討】（目的や意図に応じて題材を決め、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	<書くこと> 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
大学 「入学共通テストにおいて問いたい 思考力・判断力・表現力」	①テキストの部分を把握、精査・解釈して解答する問題 選択式/ 記述式	テキストの部分に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○テキストにおける語句の意味や比喩等の内容を適切にとらえることができる ○テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる ○テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる			
	②テキストの全体を把握、精査・解釈して解答する問題 選択式/ 記述式	テキストの全体に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○テキスト全体における書き手の考えとその根拠をとらえることができる ○目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる ○テキスト全体における人物相互の関係の変容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる ○テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる ○テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる			
	③テキストの精査・解釈に基づく考えを解答する問題 選択式/ 記述式	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それに基づき考えを形成することができる (例) ○テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行って、テキストに対する考えを説明することができる ○テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる ○テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる			
(参考)	④テキストの精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答する問題 自由記述式/ 小論文	テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる			

- 採点は、正答例や正答の条件の例等を参考に各大学がアドミッション・ポリシーに基づき実施することとし、試験問題の他、次のものを大学入試センターが作成し、大学に提供することとした。
 - ・ 解答用紙
 - ・ 正答例、正答の条件の例
(大学入試センターが作成する正答例、正答の条件の例を参考に、各大学が正答例を吟味し、具体的な正答の条件及び採点基準を作成)
 - ・ 各問題の配点例
(大学入試センターが示す例を参考に各大学が独自に設定)

- なお、本方式については、単に大学に代わって作問をするのではなく、各大学のアドミッション・ポリシーに基づく主体的な入学者選抜における作問の改善を支援、各大学の入試体制の基盤強化を促進するという大学入試センターの役割の一環として検討する。

- また、試験の実施は、問題管理のため同一日同一開始時間とする必要がある。したがって、実際の問題提供は、国立大学の前期日程（2月下旬頃）に合わせ、同一日同一開始時間での試験日程として実施することとなる（大学の判断により、一部の大問のみを活用することも可能）と想定されるが、公立大学や私立大学も含め、実施日程が合わせにくい大学にとっても、今後の作問の改善に向けた参考となる問題が提供できるよう検討する。
 - ※ センターにおいて可能な作問体制やスケジュールを考慮すると、質の高い問題の作成は毎年1セット（大問2～3問）が限界。

(2) 試行調査における問題作成の体制

- 本試行調査の作問は、大学入試センターの新テスト実施企画委員会に設置した「問題調査研究部会 国語ワーキンググループ」において作成した。このワーキンググループは約20名程度の委員で構成されており、大学教員等が約8割、高校教員等が約2割となっている。
- なお、問題調査研究部会の国語ワーキンググループでは、大学入学共通テストに向けた試行調査（プレテスト）の作問と並行して、数か月程度をかけて作問を行った。また、問題点検の作業についても、ワーキンググループにおいて併せて実施した。

2. 試行調査の実施概要

(1) 実施期日

平成30年5月24日（木）～6月22日（金）の期間内で、試行調査に参加する大学が任意の日時で実施

(2) 参加大学数及び受検者数

全国の国立9大学113名（1大学 8～19名）

※ 受検者は試行調査の参加大学が原則大学1年生を募集

II 結果の概要

1. 試験問題、正答の条件等に関する分析・検討

【分析・検討方針】

- 大学入試センターが提供した問題を活用して実施した試行調査について、正答例、正答の条件の例、配点例の活用状況を分析するとともに、大学入試センターが作成した問題や正答の条件の例に対する意見について分析する。
- 各大学の試行調査参加者の平均得点率や得点分布について分析し、多様な大学が活用することも視野に、本方式の問題の難易度の設定の在り方等について検証する。

(1) 大学入試センターが提供した正答例、正答の条件の例、配点例の活用状況

- 大学入試センターが提供した正答例、正答の条件の例、配点例における各大学の活用状況は以下のとおりである。

	大学入試センターが提供した例を用いた大学数	大学入試センターが提供した例を参考に、各大学で独自に設定した大学数
正答例	8	1
正答の条件の例	8	1
配点例	7	2

①大学入試センターが提供した正答例の活用状況

- 大学入試センターが提供した正答例をそのまま用いた大学は8大学、大学入試センターが提供した正答例等を参考に、大学で独自に正答例や準正答例（正答の条件の一部しか満たしていない正答例）を追加した大学は1大学であった。

②大学入試センターが提供した正答の条件の例の活用状況

- 大学入試センターが提供した正答の条件の例をそのまま用いた大学は8大学、大学入試センターが提供した正答の条件の例等を参考に、大学で独自に設定した大学は1大学であった。その大学では、より詳細に正答の条件を設定していた。

(例：第2問問3 正答の条件④)

【大学入試センター作成の正答の条件の例】

正答の条件②や③を踏まえた、遊びに対する、自分の考えを書いているもの

【大学が作成】

正答の条件②や③を踏まえた、遊びに対する自分の考えを書いているもの。その際、以下のいずれかであることが重要である。

- A 文章Ⅰ又は文章Ⅱに賛成の立場で自分の考えを書いていること
- B 文章Ⅰ及び文章Ⅱのいずれにも賛成の立場で自分の考えを書いていること
- C 文章Ⅰ及び文章Ⅱのいずれにも反対の立場で自分の考えを書いていること

③大学入試センターが提供した配点例の活用状況

- 大学入試センターが提供した配点例をそのまま用いた大学は7大学、大学入試センターが提供した配点例等を参考に、大学で独自に設定した大学は2大学であった。大学入試センターでは、第2問の配点例について、問1 7点、問2 18点、問3 25点としていたが、配点を独自に設定した大学では、各問の配点が5点刻みとなるようにしていた。

	第1問			第2問		
	問1	問2	問3	問1	問2	問3
大学入試センター	15点	10点	25点	7点	18点	25点
α大学	15点	10点	25点	5点	15点	30点
β大学	15点	10点	25点	10点	10点	30点

(2) 採点基準

- 大学入試センターが提供した正答例や正答の条件の例のみで採点した大学は1大学、大学入試センターが提供した正答例や正答の条件の例を参考に、大学において採点基準を作成して採点した大学は8大学であった。
- 各大学が作成した採点基準には次のようなものが見られた。

〔内容上の条件〕

- ・ 正答の条件を満たす判断のポイントを整理
- ・ 正答の条件ごとに3段階のルーブリックを作成

〔形式上の条件〕

- ・ 字数超過に対する考え方を整理

〔表記、表現、文章のつながり〕

- ・ 誤字に対する考え方を整理
- ・ 不適切な表現に対する考え方を整理
- ・ 論理的なつながりが不適切なものに対する考え方を整理

- 大学入試センターが参考として提供する正答例及び正答の条件の例、採点に関して意見があった大学は、9大学中7大学であった。主な意見は以下のとおりである。

【解答に当たっての注意事項】

- ・ 改行の要否等、解答の書き方についてもう少し詳しく説明があった方がよい。

【正答例及び正答の条件の例】

- ・ 解答例を複数例提示してほしい。

【採点】

- ・ 細かな採点基準は大学で作成できるため、大学入試センターから提供された資料等を参考に採点することは可能であると考えられる。
- ・ 採点者が出題意図を十分に理解することが難しく、出題意図を踏まえた解答例の作成、詳細な採点基準の難しさがあった。
- ・ 採点者の違いによって採点ブレが生じないよう、各問題の採点者を統一する必要がある。また、評価の観点が極端に偏らないようにする必要がある。

【その他】

- ・ 問題作成の負担等の軽減につながる。

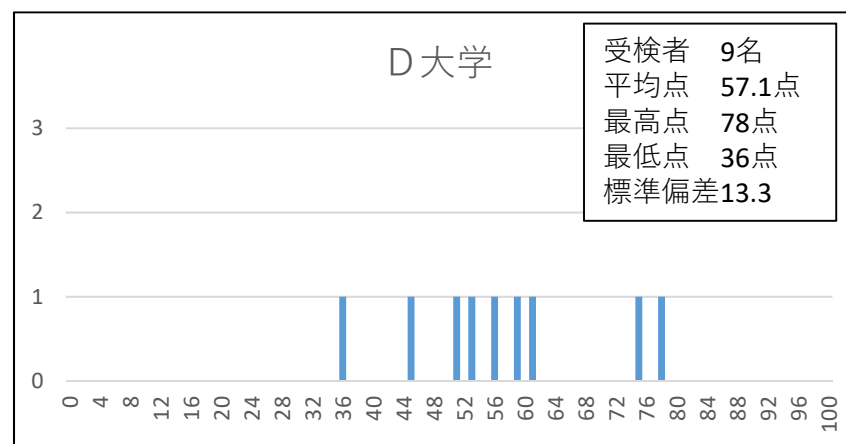
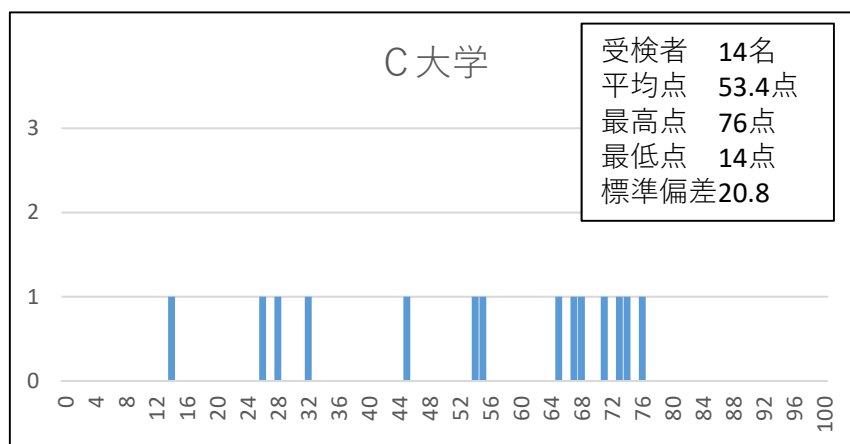
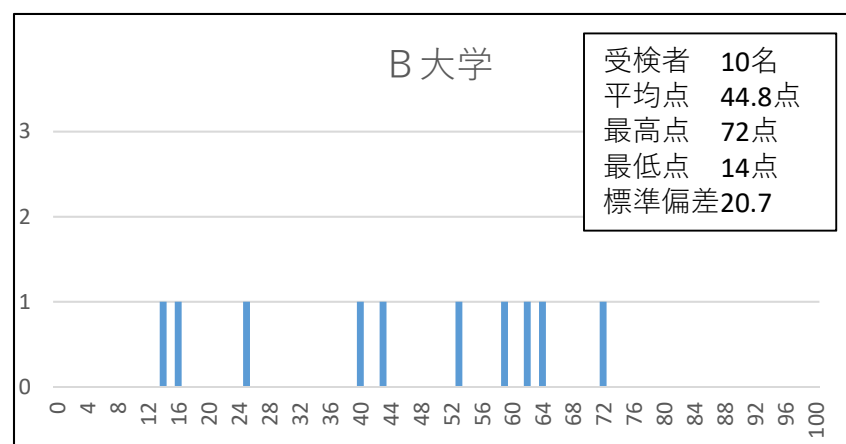
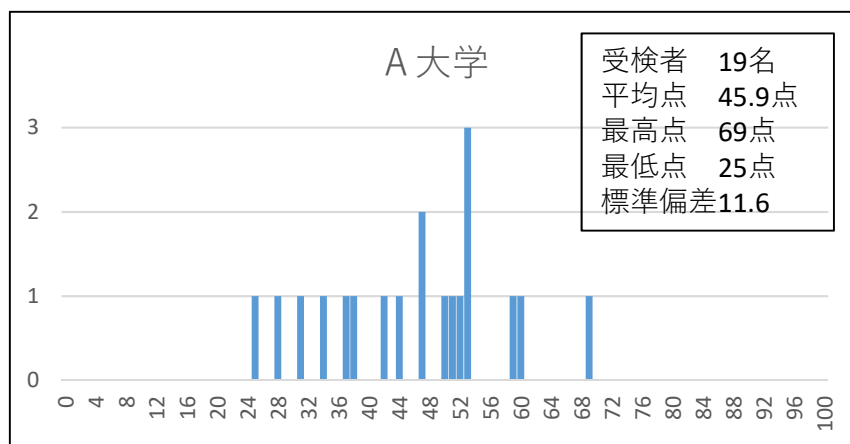
(3) 試験時間

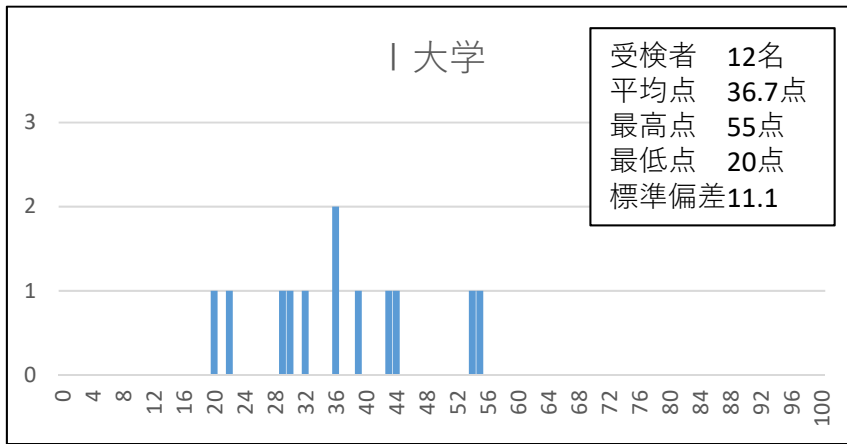
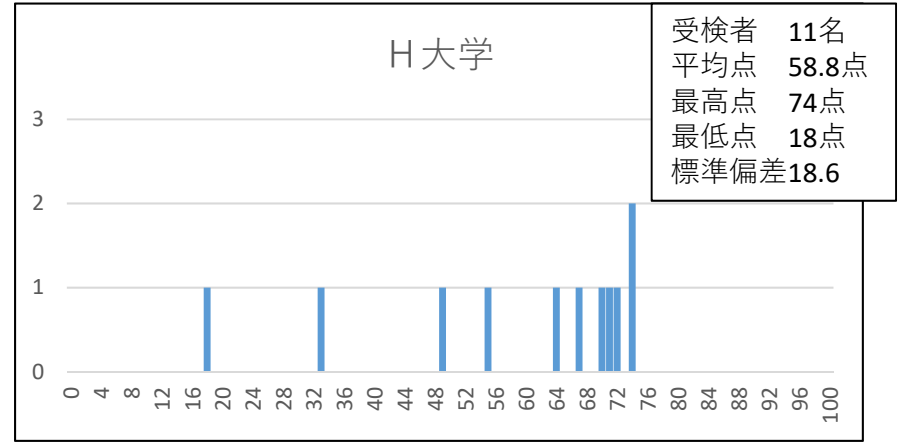
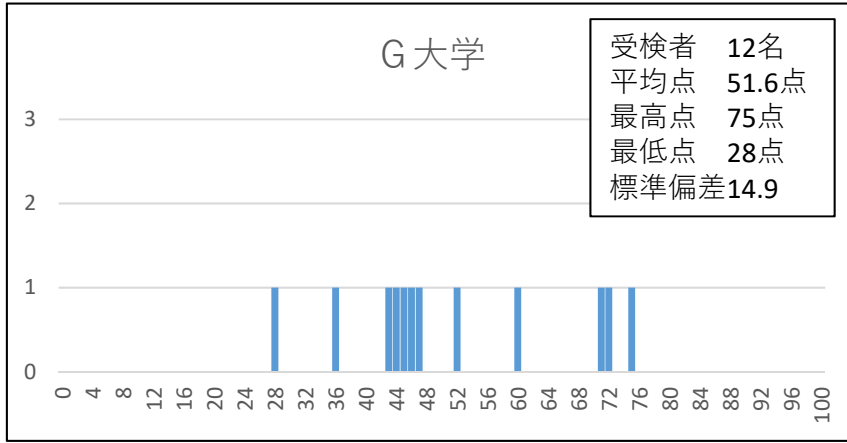
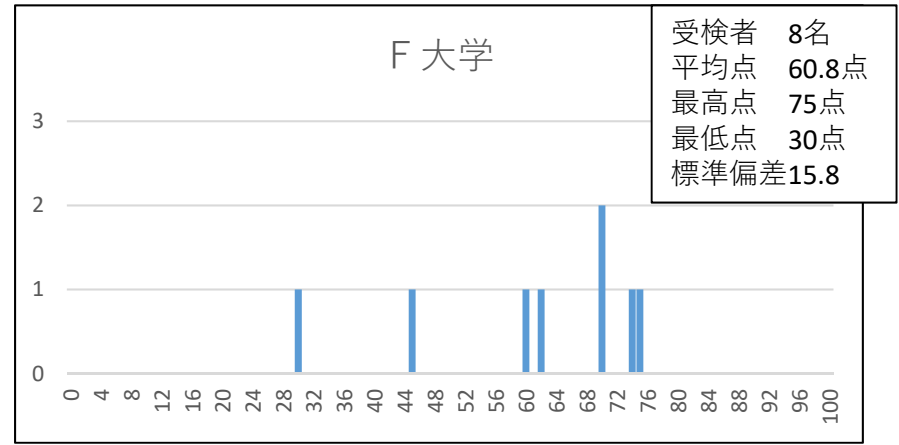
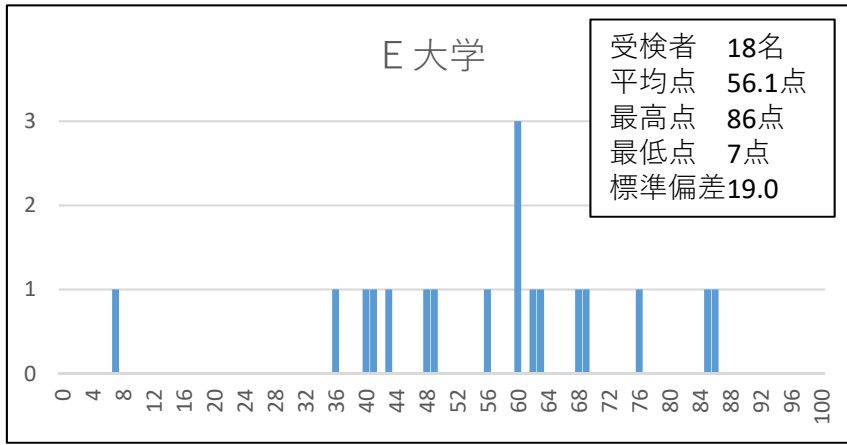
- 試験時間は80分としたところ、試験時間に関するアンケートの結果は以下のとおりであった。

	大学数
長い	0
やや長い	0
適当	5
やや短い	3
短い	1

(4) 試験問題

- 各大学の試行調査参加者の平均点と得点分布は以下のとおりである。各大学からの参加者数が多くはないこと、参加者は全員当該大学の合格者であること、採点基準や配点が大学により異なること等も考慮する必要はあるが、各大学における標準偏差は11.1~20.8であることから、得点はある程度散らばっていると考えられる。





- 問題の難易度についてのアンケート結果は以下のとおりである。

	大学数
難易度が高すぎる	2
難易度はやや高いが、利用大学で試験時間や正答の条件、採点基準等を調整することにより利用が可能	4
難易度は適当	2
難易度はやや低いが、利用大学で試験時間や正答の条件、採点基準等を調整することにより利用が可能	0
難易度が低すぎる	0
その他	1 ※ 1

※ 1 学部により適切な難易度が異なるため、ある学部には高いが、ある学部には適当と回答

2. 実施方法に関する分析・検討

【分析・検討方針】

○ 試行調査の参加大学に対して実施したアンケート結果を踏まえ、同一日同一開始時刻での試験日程の決定方法等、ルールの設定方法について検討する。

- 大学入試センターが国立大学の前期日程を対象として問題を提供し、大学は同一日同一開始時間での試験日程として実施する方針であることから、試験開始時刻等の決め方についてアンケートを行った。その結果は、以下のとおりである。

	大学数
利用大学の意見を踏まえ、大学入試センターにおいて決定	8
利用大学同士で協議して決定	0
その他	1 ※1

※1 試験開始時刻を大学の事情により決定できない場合は、利用しない可能性があると回答

- 問題管理のため、予め試験開始時刻の繰下げ限度時刻を設定する必要があることから、その決め方についてアンケートを行った。その結果は、以下のとおりである。

	大学数
利用大学の意見を踏まえ、大学入試センターにおいて、試験開始時刻の繰下げ限度時刻を決定	8
利用大学同士で協議して決定	0
各利用大学で独自に決定	0
その他	1 ※1

※1 試験開始時刻を大学の事情により決定できない場合は、利用しない可能性がある」と回答

3. 利用方法に関する分析・検討

【分析・検討方針】

○ 本方式の利用を希望する大学の活用方法や負担額等について、シミュレーションを行い、今後の検討に生かす。

○ 本方式の利用についてアンケートを行ったところ、利用したいと回答した大学は1大学、判断できないと回答した大学は8大学であった。判断できない理由として、以下のような意見があった。

- ・ 二次試験科目等を含めた再検討が必要
- ・ アドミッション・ポリシーに応じた出題内容となるかが課題
- ・ 試験の開始時刻・実施方法や利用料金に関する方針が明確でない
- ・ 採点等にかかる負担や組織の検討
- ・ 前期日程で国語を課している学部が利用するかどうか不明

○ 本方式の利用大学の費用負担についてアンケートを行ったところ、大学から以下のような意見があった。

- ・ 作問等ができない大学にとっては有効であり、多くの大学が利用することで、費用対効果でも有効と考える
- ・ 費用負担は軽くしてほしい
- ・ 一部の学部、学科のみの利用も考慮した料金としてほしい
- ・ 利用大学の多寡にかかわらず、一定の価格を希望する

- 本方式に要する経費については、大学入試センターが所有している機能等を最大限に利活用した上で、利用大学で案分して負担を求めることとなるため、各大学の経費負担は、利用大学数により異なることとなると想定される。
問題を作成する委員の人数や作成期間等にもよるが、問題作成（印刷経費等含まず）のみで総額約1,000万～3,000万円程度の経費が見込まれるところである。

4. 本方式の導入に向けた検討の方向性

【分析・検討方針】

○ 試行調査の分析を踏まえ、大学入試センターと大学の役割分担や導入に向けて大学が準備・検討すべきことなどについて、イメージ例を示す。

- 試行調査の問題について、各大学の受検者数は少ないものの得点にある程度の散らばりが見られたこと、「問題の難易度は適当」又は「問題の難易度はやや高いが利用大学で試験時間や正答の条件、採点基準等を調整することにより利用が可能」と回答した大学が6割以上であったことから、今後さらに利用大学の状況を見据えつつ問題や正答の条件の例等に反映することで、大学入試センターが作成した問題を個別選抜で活用していくことは可能と考えられる。
- 個別入試では当該大学の受検を希望する数百～数千名の学力を識別することから、各大学の受検希望者の学力層に応じた問題を作成することが最も望ましいが、大学入試センターの問題作成体制やスケジュールを考慮すると、毎年度質の高い問題の作成を行うのは、2～3の大問から構成される問題セット1セットが限界であり、同一日同一開始時刻での実施が前提となる。今後は、主たる題材は古典以外の文章を対象とし、大学入学共通テスト程度の難易度を踏まえつつ、大学教育に必要な標準的な力を問うことができるようにすることを目標に、試験問題及び正答例、正答の条件の例等を作成し提供する。

- 試行調査を踏まえ、大学入試センターと利用大学の役割分担のイメージは以下のとおりである。

【大学入試センター】

- ・ 試験問題、出題のねらい、正答例、正答の条件の例を夏頃をめぐりに大学に提供

【利用大学】

- ・ 個別入試で使用する大問を決定し、大学独自に作成した問題とあわせて利用する場合には、試験問題の重複等を確認し、重複等があった場合には必要に応じて大学で問題を調整する。
- ・ 必要に応じて、大学入試センターが提供した試験問題を確認し、大学のアドミッション・ポリシーや問題の難易度等を踏まえ、問題の一部を変更することができる。なお、問題を変更する場合は大学入試センターに連絡する。
- ・ 試験時間、各設問の配点を決定する。
- ・ 大学入試センターが提供した正答例、正答の条件の例を参考に、正答例等を吟味し、具体的な正答例、正答の条件及び採点基準を作成する。なお、採点基準の作成における各大学からの質問については当センターにおいて受け付ける。
- ・ 試験当日又は試験終了後の受検者からの質問等については、利用大学で対応する。

- 試験日程のイメージは以下のとおりである。

【大学入試センター】

- ・ 予め利用希望大学の要望を聴取し、試験実施の2年程度前に、試験日、試験開始時刻、試験時間繰下げ限度時刻などを決定し、利用大学に通知する（例えば、前期日程の初日の13時を試験開始時刻とし、試験繰下げ限度は60分とするなど）。
- ・ 試験日当日は、利用大学における試験実施状況を把握する。

【利用大学】

- ・ 大学入試センターから示された内容を踏まえ、本方式の利用を決定した場合は、試験日程を調整する。
 - ・ 試験当日、試験繰下げ等が生じた場合には、大学入試センターに連絡をする。
- 今後、国立大学協会と連携して各大学へのアンケート等を行い、それを基に利用方法等を決定していく。既に本方式の利用を決定・公表している大学もあることを踏まえ、大学との連携を密にして引き続き検討を行っていく。

参考 アンケート項目

項目	回答形式
1. 本方式の利用について	
1-① 「大学入試センターが大学の求めに応じ記述式問題等を提供する方式」について、今後、利用したいとお考えですか。	選択 + 自由記述
1-② 大学入試センター試験が検定料収入によって実施されていることを踏まえると、本方式が導入された場合は各利用大学に費用負担をお願いすることになると考えております。その際の費用負担は大学入試センターにおける必要経費（作問委員などの人件費等）や利用大学数等を勘案して検討することになりますが、仮に本方式を利用する場合においてご意見がございましたら自由にご記入ください。	自由記述
1-③ 本方式が導入された場合、2～3の大問から構成される問題セットを1セット作成し、各利用大学の判断により、そのうちの一部の大問のみを活用することも可能とする方針です。貴大学では、仮に本方式を利用する場合の利用方法について、どのようにお考えですか。	選択 + 自由記述
1-④ 大学入試センターから提供される問題に加えて、貴大学で独自に作成する問題とあわせて利用することを考えていますか。	選択
1-⑤ 貴大学で作成する問題とあわせて利用する場合において、もしも試験問題の題材の重複等があった場合には、貴大学で問題を調整していただくことになると考えております。調整期間を考慮すると、大学入試センターからの問題提供時期はいつ頃が望ましいとお考えですか。	自由記述
1-⑥ 貴大学の担当者及び作問担当教員等は、大学入試センターからの問題提供後はその問題を試験実施前に見ることが可能となりますが、そのセキュリティの在り方について、貴大学ではどのようにお考えでしょうか。	自由記述
2. 本方式の利用のルールの設定方法について	
2-① 本方式では、国立大学の前期日程を対象として問題を提供し、同一日同一開始時刻での試験日程で実施していただく方針です。試験開始時刻等の決め方について、貴大学では、どのようにお考えですか。	選択 + 自由記述
2-② 天候や公共交通機関の状況により、試験開始時刻を繰り下げて実施する場合がございます。そのような大学があった場合、ある大学で試験室を退出した受験生が試験問題に関する情報をSNS等で発信し、それを別大学で受験前の受験生が目にする可能性が生じます。このため、予め試験開始時刻の繰下げ限度時刻を設定することが必要です。このことについて、貴大学ではどのようにお考えでしょうか。	選択 + 自由記述
3. 試験問題等について	
3-① 今回の試行調査の試験問題の難易度について、貴大学ではどのようにお感じでしょうか。	選択 + 自由記述
3-② 今回の試行調査でセンターが示した標準試験時間は適当でしょうか。	選択
4. センターが大学の求めに応じ記述式問題及び採点基準を提供する方式について、ご意見などございましたら自由にご記入ください。	自由記述